市政を問う!!

一般質問の要旨

質問者
永井泰仁
五味東條
金子勝寿
山口恵子
中村　努
太田茂実
今井英雄
小野光明
柴田　博
鈴木明子
古厩圭吾
石井新吾

※本文は質問者自身が書いています。

田園都市としての農業政策

◆米政策の見直しについて

問　20年産生産調整面積拡大に伴う交付金は　（永井）

答　5年間継続転作が条件、地域水田農業推進対策協議会と契約した農業者で、19年産調整実施者は10a当たり5万円、それ以外の者は10a当たり3万円が、作付け前の踏み切り料として交付され、バイオ米等も条件付きで、産地づくり交付金が交付される。

◆農地耕作資格面積緩和策

問　新規就農希望者へ面積要件の50aを緩和するか　（太田）

田園都市としての農業政策の充実を

答　県から経営規模の見直しがあり、広丘地区40a、宗賀30a、楢川20aに緩和する。ただし利用権設定（借地）しての新規就農については、今後協議をしたい。

◆ブドウ晩腐病対策として

問　ブドウの雨除ハウス助成の拡大は　（太田）

答　本年度事業費1/3補助する。

◆直売所の支援

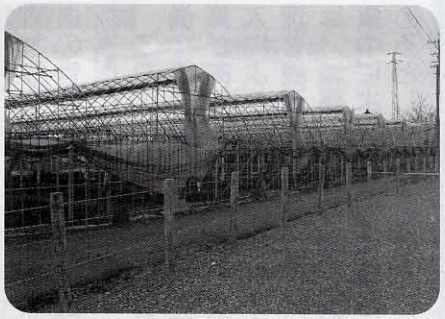
問　直売所は小規模農家の収入確保や食料自給率の向上、地域振興等に寄与、野菜流通の大きな流れとなっているが市としての考えは　（五味）

答　農協、直売所、関係産業などと一体となって振興策を積極的に研究していく。

◆森林税導入による里山整備

問　整備手法は　（永井）

答　個人林を30ha余に団地化し、市との協定により20年間転用等の制限がされ、切捨て間伐、除伐は、1ha約19万円で9割補助があり、個人負担は、約2万円前後の見込み。

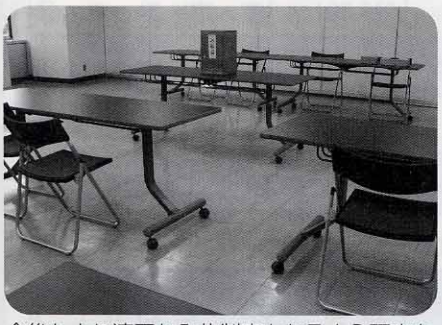

ブドウの雨除ハウスについて
事業費の1/3を補助

入札制度の見直しの考えは

◆入札制度の問題点は何か

問　昨年7月から改善された「簡易型一般競争入札」方式の現状はどうか、また、問題点は何と考えるか　（柴田）

答　7月以降の結果は、合計で平均落札率が85・65%で、導入前より8・66%低下している。入札参加業者が増え競争性が増したものと考える。現在、低入札価格値の引き上げを検討している。


今後もより適正な入札制度となるよう研究を